

特集

だれでも食堂かいてーん！ セカンドライフマスターズクラブに聴きました

市民と議会をつなぐ特集ページです。
今回は、龍雲寺の無量殿（西方地内）で、子どもに限らず、だれでも参加してもらうようにと「だれでも食堂」を開催されているセカンドライフマスターズクラブの皆さまに聴きました。

「子どもだけではなく格差社会の中で、困った人に対して役に立ちたい。」



「孤食」といった言葉に身につまされる思いを感じる。子どもだけではなく格差社会の中で困った人に対して、人として役に立ちたい・お節介をしたいという気持ちがだれでも食堂の開店のきっかけとなった。

・「子ども食堂」では、対象者が子どもに限定されてしまうイメージがあるため、だれでも気軽に来店できるようにとの思いを込め『だれでも食堂』とした。

〈提供される食事の量はどれくらいですか？〉

・最初始めた頃は、50人分程度準備することからスタートした。売れ残った時期もあったが、本日は130人分（お米6升分）を準備した。提供する食事は、子どものアレルギー等にも配慮し、精進力レーとしている。以前は、お堂を食堂として利用し開店していたが、昨年から新型コロナウイルスの影響により、お菓子やおはたき、焼き餅などを付けテイクアウト（持ち帰り）とし、



コロナ前の食堂

参加費はお菜銭100円を頂いている。
なお、精進力レーは肉類を使用せずに揚げを具材にし、野菜だしや昆布だしを使っている。